

成東病院組合解散、地方独立行政法人化 4市町議会の可決に強く抗議します

山武地域の医療をよくする会
代表世話人 須河内 省三

2009年10月30日

東金市・山武市・九十九里町・芝山町は、10月の臨時議会で国保成東病院組合を来年3月に解散し、4月に山武市単独の地方独立行政法人で運営することを可決しました。



10月18日、住民集会に80人参加

会に陳情書提出、議員への要請、6月から3回の住民集会（延べ340人）を開催、街頭での訴えも行ってきました。こうした運動に寄せられた、多くの患者や住民の皆さんの声を無視した暴挙に強く抗議します。

拙速で道理ない暴挙

①病院の規模縮小や医師などの確保難による診療科の減少で、行き場のない患者が大量に生まれ、新たな医療崩壊につながる。②採算優先の独法化で、差額ベッドなど患者負担が増え、経済的弱者が安心してかかれぬ病院になる。③清算金約43億円が、住民負担としてのしかかること。

また、組合解散の理由である経営問題は、患者も増え収益も改善して回復傾向にあること。さらに、東金市・九十九里町が建設するとしている地域医療センターは早くとも3年先で、医師確保など具体的な展望がないことなど、根拠も道理もないことを明らかにしてきました。

背景に県や国の政策

今回の問題の背景には、自公政権が医療費抑制のために県や市町村の病院を統合縮小する政策を進め、千葉県が忠実に推進していることにあることを指摘してきました。

しかし、新政権は、医師増や地域医療計画の抜本的な見直しなど医療政策の転換を打ち出しています。こうした情勢の変化も見ずに、住民の命にかかわる重大事を住民に説明もなく、強行したことは拙速の極みであり禍根を残すこととなります。

山武市は地域医療充実第一の運営守れ

山武市は、「独法化後の成東病院のあり方で、公の責任において地域住民が安心して医療サービスを受できる」地域医療の充実を第一に考えた運営とされています。また、山武市長は、「今の医療は守る」と私たちに約束しました。

私たちは、山武市が今後の成東病院の運営に当たり、少なくとも今の医療を後退させることなく、山武地域の住民が切望する、救急や小児医療を守り、

産婦人科の再開、患者負担を増やさないことなどを求めます。そのために医師や看護師など職員の確保を求めます。

県は東金病院と救急医療の再建に責任を持て

私たちは、今後も山武市に成東病院の充実、県に東金病院と救急医療体制の再建、国に地域医療再生の抜本策を求めます。山武地域の住民が健康で安心して暮らしていけるよう、ねばり強く運動を進めます。

会員の皆さん、住民の皆さん、ともに頑張りましょう。

山武地域の医療をよくする会

代表 須河内省三

〒283-0005 東金市田間84-4

TEL 0475-52-7226 2009年11月